

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠落等については、一つごとに1点減点する。

□

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

自我が弱く感傷的で道義的に未熟であった青年時代の自分が、確固たる自己の道義に抵触するものは決して

C

許さない先生の峻厳さを恐れたのは当然だと思っているから。

B

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「自我が弱く感傷的で道義的に未熟であった青年時代の自分」…4点

- ・「自我が弱く」「感傷的で」「道義的に未熟であった」「青年時代の」を各1点とするのが目安。
- ・右のそれぞれの要素についてほぼ同意と見なされる説明なら可。

■要素B「確固たる自己の道義に抵触するものは決して許さない」…2点

- ・先生(漱石)が、道義に抵触するものは許さないという内容が読み取れれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「先生の峻厳さを恐れたのは当然だと思っている」…2点

- ・筆者が先生(漱石)を恐れたのは当然だということが読み取れれば可。
- ・単に「恐れたから」というだけの説明は1点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「…から…ので」という文末表現が原則。理由説明の答案として不適切な形であると判断される場合は1点減点。

## ■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点10点

## ■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 模範解答例 B 模範解答例 C 模範解答例 D 模範解答例 E 模範解答例

高校に在職当時の先生は、世間全体に苛立ちを感じて、体も壊し、他人からの好感など自ら拒んで、何かにつ

F

け痲癩を起こしていたので、自分は学生から敬愛されてしかるべき教師としての自覚は持っていなかったと

考えている。

## ■採点方法…各要素単独採点

- 要素A「高校に在職当時の先生は」…1点
  - ・説明対象の提示。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

## ■要素B「世間全体に苛立ちを感じて」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素C「体も壊し」…1点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

## ■要素D「他人からの好感など自ら拒んで」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素E「何かにつけ痲癩を起こしていた」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素F「自分は学生から敬愛されてしかるべき教師としての自覚は持っていなかった」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素G 傍線部に関する筆者の説明と認めうる文末表現なら広く許容してよい。不適切であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 相手の微妙な心の動きを感得し、 B 内心ではそれに敏感に反応しても C 態度や表情に現すのを抑制し、 D 互いの

心の核心に触れる話題はユーモアで包みこもうと努めること。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「相手の微妙な心の動きを感得し」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「内心ではそれに敏感に反応しても」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「態度や表情に現すのを抑制し」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「互いの心の核心に触れる話題はユーモアで包みこもうと努める」…2点

- ・「ユーモア」は「諧謔」でも可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「互いの心の核心に触れる話題」への言及がないなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点4点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 先生は、不正や不純を決して許さないという徳義が B 自愛も含めた愛より優先されるべきだと C 情熱的な D 信念を持ち、最愛の人間が不正を働けば罰するべき憎悪の対象となり、 E 子に対する親の愛は平等であるべき F だと考え、公平無私たらしめる努力を不断に貫き通したということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「不正や不純を決して許さないという徳義」…3点

- ・「不正」「不純」「徳義」の三要素を各1点とするのが目安。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「自愛も含めた愛より優先されるべきだ」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「情熱的な信念を持ち」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「最愛の人間が不正を働けば罰するべき憎悪の対象となり」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「罰するべき」「憎悪の」のいずれかを欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「子に対する親の愛は平等であるべきだと考え」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「公平無私たらしめる努力を貫き通した」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点10点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 偏屈な奇行家と言われようと B ひたすら道徳的心情を重んじるといふ先生の常識とは異なり、形式習慣とな

っている。虚偽や虚礼で物事をごまかすような道徳的水準の低い世間的な振る舞い方が常識と見なされると

ということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「偏屈な奇行家と言われようと」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「道徳的心情を重んじるといふ先生の常識」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「形式習慣となっている」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「虚偽や虚礼で物事をごまかす」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「道徳的水準の低い世間的な振る舞い方が常識と見なされる」…2点

- ・「道徳的水準の低い」「世間的」を各1点とし、ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・右の一方を欠く、また、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

## 問一

## ■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

## ■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

所在なく一人で雪原を前に、頭に雪の降りかかる音しか聞こえなくなった時に生じた、言葉で表現できそ

B

C

D

もない思念を自然が自分にもたらしているかのような思い。

## ■採点方法…各要素単独採点

## ■要素A「所在なく一人で雪原を前に」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「一人で雪景色を眺め」「一人で雪に覆われた山村を眺めつつ」なども○
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素B「頭に雪の降りかかる音しか聞こえなくなった時に生じた」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「頭に降り積もる雪の音だけを聞いているときに抱いた」も○
- ・「自分に聞こえる音だけの世界で感じた」なども○
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素C「言葉で表現できそもない思念」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「自分の心に降ってくる」とりよめのない思い」なども○
- ・「自分の内面にある思い」というニュアンスがあれば○
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素D「自然が自分にもたらしているかのような」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「自然」は「雪」でも○
- ・「雪となって降り積もっているのではないかと錯覚する」なども○
- ・「自然は外部ではなく内部にあるものだと感じる」は△1点
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素E 文末表現は「…思い（心情）」という形が原則。

- ・「思い」の説明として妥当な形であると判断できれば許容してよい。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

## ■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

## ■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B C

自然は、語るべきコンテンツを持つていても、それを言語的に分節化して伝達する術を持たず、孤立した空

D

間の中で、感性的な苦悩の嘆息を漏らすことしかできないから。

## ■採点方法…各要素単独採点

## ■要素A 「自然は語るべきコンテンツを持つていても」…2点

- ・「自然」という語は答案中どこかにあればよい。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素B 「それを言語的に分節化して伝達する術を持たず」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「分節化して」を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素C 「孤立した空間の中で」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素D 「感性的な嘆息を漏らすことしかできない」…2点

- ・「嘆息」は「吐息」でも可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「感性的な」を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素E 「…から…ので」という文末表現が原則。理由説明の答案として不適切な形であると判断される

場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 陽光に溢れて暖かく輝くような希望に満ちている世界の中で、  
 B 生きる意味も目的も見出せずに絶望の底に  
 C 沈んでいる自分は、  
 D 世界の価値をおとしているということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「陽光に溢れて暖かく輝くような」…1点

- ・「陽光に溢れて」とほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

■要素B「希望に満ちている世界の中で」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「生きる意味も目的も見出せずに絶望の底に沈んでいる自分」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「生きる意味も目的も見出せずに」にあたる内容を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「世界の価値をおとしている」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

「…(という)表現」「…(という)様子」などは○



■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点1点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B C

人間は世界を事実の集まりと捉え、理性で善悪の区別を定め、意味や目的を求めて効率的に生きようとする

D E

が、全てを内包する自然に感覚を解放した時、人間に想定しうる領域は世界のほんの一部にすぎないとわか

るから。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「人間は世界を事実の集まりと捉え」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「理性で善悪の区別を定め」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「意味や目的を求めて効率的に生きようとする」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「意味や目的を求めて」「効率的に」のいずれかを欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「全てを内包する自然に感覚を解放した時」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「人間に想定しうる領域は世界のほんの一部にすぎないとわかる」…3点

- ・人間の理性が想定、構想しうる領域は限定されているという内容が読み取ればよい。そうした内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「…から…ので」という文末表現が原則。理由説明の答案として不適切な形であると判断される場合は1点減点。

## ■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点4点  
1点

## ■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

理性によって自由に制御可能な領域の範囲内に善悪・幸不幸の基準を設定し、善の総量の計算可能性を問

B

題にするような道徳原理は、人生を左右する想定外の運など考慮の外に置くが、理性を超越して人間を導く

D

自然を度外視して、人生を展望することなど可能なかということ。

## ■採点方法…各要素単独採点

## ■要素A「理性によって自由に制御可能な領域（の範囲）内に善悪・幸不幸の基準を設定し」…4点

A①・「善悪・幸不幸は、理性によって制御可能（≡コントロールできる）」という要素が2点

- ・「自由に」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

A②・「善悪・幸不幸は、理性の領域内にある」という要素が2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- ・「善」もしくは「善悪」があれば、「幸不幸」はなくても可。

## ■要素B「人生を左右する想定外の運など考慮の外に置く」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

- ・「人生には想定外の運の要素が大きく作用するという視点を欠落させている」なども○。

- ・「運を考慮しない・想定しない」という内容だけ読み取れば2点与えてよい。

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素C「理性を超越して人間を導く自然を度外視して」…4点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

- ・自然は理性を超越しているという事が説明されず、自然を度外視するということだけが説明されている場合、また説明が曖昧であると判断される場合は2点。

## ■要素D「人生を展望することなど可能なか」…3点

- ・「道徳望遠鏡」の説明なので、「人生を展望する」「人生を道徳によって見通す」などの記述ができ  
ていれば3点。

- ・「見通す」のように「望遠鏡」に合わせた表現にはなっていないが、ほぼ同内容の説明がなされてい  
ると判断できれば1点。

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素E「…（という）こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

▲ 内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。

問一 傍線部(1)～(3)を、言葉を補いつつ、現代語訳せよ。

(1) これを聞くも、おこたりにたる人ぞゆゆしき。(10点)

【模範解答】

一条太政大臣の子息の少将兄弟が二人とも九月の十六日に夭逝したという、いたわしい話を聞くにつけても、快癒した我が子道綱は、ほんとうに幸運である。(70字≧2行)

A 「これを聞くも」の訳 3点 ↓ 「一条太政大臣(伊尹)の子息(の少将兄弟)が二人とも

(九月の十六日に)夭逝したという、(いたわしい)話を聞くにつけても」

B 「おこたりにたる」の訳 3点 ↓ 「快癒した」

C 「人ぞゆゆしき」の訳 4点 ↓ 「(我が子)道綱は、ほんとうに幸運である」

◆ 各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「これを聞くも」の訳 3点 ↓ 「一条太政大臣(伊尹)の子息(の少将兄弟)が二人とも

(九月の十六日に)夭逝したという、(いたわしい)話を聞くにつけても」

1 「これ」の内容 2点

「一条太政大臣(伊尹)の子息(の少将兄弟)が二人とも(九月の十六日に)夭逝した」

「一条太政大臣(伊尹)の子息(の少将兄弟)が二人とも(九月の十六日に)病死した」

「一条太政大臣(伊尹)の子息(の少将兄弟)が二人とも(九月の十六日に)死んだ」等。

2 「聞くも」の訳 1点

「聞くにつけても」「聞くときにも」「聞いても」「聞くときも」「聞くのも」等。

B 「おこたりにたる」の訳 3点 ↓ 「快癒した」

1 「快癒した」「治ってしまった」「病気がよくなった」「快方にむかっている」「全快した」等。

C 「人ぞゆゆしき」の訳 4点 ↓ 「(我が子)道綱は、ほんとうに幸運である」

1 「人」の理解 1点

「(我が子)道綱は」「私の息子は」「助は」等。

2 「ゆゆしき」の訳 3点

「ほんとうに幸運である」「本当によかった」「非常に運がよい」「大変に強運である」「その宿縁のほどは並々ではない」「その宿縁のほどはすばらしい」等。

(2) いかなれば見えざらんと、おぼつかなさになむ。(10点)

【模範解答】

(時姫の子どもたちも皆快癒したので) 道綱の疱瘡も快癒していると思うのだが、道綱はどうして私のところを姿を見せないのだろうかと気がかりで、私はこの手紙を書いたのだ。(81字＝3行)

A 兼家がこの手紙を書いた根拠を補う 2点 ↓ 「(時姫の子どもたちも皆快癒したので) 道

綱の疱瘡も快癒していると思うのだが」

B 「いかなれば見えざらんと」の訳 3点 ↓ 「道綱はどうして私のところを姿を見せないの

だろうか」と

C 「おぼつかなさになむ」の訳 3点 ↓ 「気がかりで」

D 結びの省略部分の補い 2点 ↓ 「私はこの手紙を書いたのだ」

◆各加点要素の加点の条件【A・B・C・Dに関して部分採点】

A 兼家がこの手紙を書いた根拠を補う 2点 ↓ 「(時姫の子どもたちも皆快癒したので) 道

綱の疱瘡も快癒していると思うのだが」

1 「時姫の子どもたちも皆快癒したのに」「道綱(助・あなたの息子)の疱瘡も快癒していると  
思うが」等。

B 「いかなれば見えざらん」の訳 3点 ↓ 「道綱はどうして(私のところを) 姿を見せない

のだろうか」

1 「いかなれば見えざらん」の直訳 2点

「どうして(私のところを) 姿を見せないのだろうか」「なぜ(私のところを) 現れないのだ  
ろうか」「どういう理由で(私のところを) おとずれないのだろうか」「どうして(私のとこ  
ろに) やって来ないのだろうか」等。

2 「いかなれば見えざらん」の主体 1点

「道綱(助)は」「お前の息子は」「君の息子は」等。

C 「おぼつかなさになむ」の訳 3点 ↓ 「気がかりで」

1 「気がかりで」「心配で」等。

D 結びの省略部分の補い 2点 ↓ 「(私は) この手紙を書いたのだ」

1 「(私は) この手紙を書いたのだ」「(私は) 連絡したのだ」等。

☆文脈上、主体が一人称なのは明らかなので、「私は」はなくてもよい。

(3) 忘るるは、さもや侍らむ。(10点)

【模範解答】

あなたが、私のことを忘れていると、手紙でおっしゃっていることは、本当にそのとおりなのかもしれません。(50字＝2行)

A 「忘るるは」の訳↓「あなたが、私のことを忘れていると、手紙でおっしゃっていることは」  
は 5点

B 「さもや侍らむ」の訳↓「本当にそのとおりなのかもしれません」  
5点

◆各加点要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「忘るるは」の訳 ↓ 「あなたが、私のことを忘れていると、手紙でおっしゃっていることは」  
は 5点

1 「忘るる」の主体と客体

「あなたが、私(のこと)を忘れている」等の表現があれば、3点。

☆ここは手紙文なので三人称は不可。

2 ここは兼家の言葉「忘れぬことはありながら」を受けて「(あなたが手紙でおっしゃっている)『忘るる』とは」と言っている意味が理解できていること。

「(あなたが、私のことを忘れていると手紙で)おっしゃっていることは」

「(あなたが、私のことを忘れていると手紙で)いっていることは」

「(あなたが、私のことを忘れていると手紙に)書いていることは」等の表現があれば、2点。

点

☆ここでは敬語の有無は問わない。

B 「さもや侍らむ」の訳 ↓ 「本当にそのとおりなのかもしれません」  
5点

1 連語「さもやあらむ」の解釈、「その通りかもしれない」等の表現があれば、3点。

☆「その通りだろう」「本当だろう」「もっとものことだろう」「当然のことだろう」「当然だろう」等。

2 係助詞「や」が「疑い」の意味で解釈してあれば、1点。

☆「…ではなからうか」「…かも知れない」等。

3 丁寧語「侍り」の表現があれば、1点。

☆「その通りではないでしょうか」「もっとものことかも知れません」「当然のことかも知れませんが」「当然のことではないでしょうか」等。

問二 波線部（「さるまじき人だにぞ来とぶらふめると見る心ちぞ添へて、ただならざりける」）における作者の感情を説明せよ。（10点）

【模範解答】

それほど親しくもない人でさえ、道綱の見舞に来てくれているようなのに、なぜ実の父親である兼家はこんなに冷淡でいられるのかと思うと、兼家のことが恨めしくて、とても平静ではいられない気持ち。（92字＝3行）

- A （作者の）とても平静ではいられない気持ち。 3点
- B 兼家のことが恨めしい 2点
- C なぜ実の父親である兼家はこんなに冷淡でいられるのかと思う 2点
- D それほど親しくもない人でさえ、道綱の見舞に来てくれているようなのに 3点

◆各加点要素の加点の条件【A・B・C・Dに関して部分採点】

- A （作者の）とても平静ではいられない気持ち。 3点
- 1 「ただならざりける」を「（作者の）とても平静ではいられない気持ち」という意味で解釈できている 3点
- ☆ 「（作者の）尋常ならざる感情」「（作者の）普通ではいられない気持ち」「（作者の）激しい怒り」「深い恨み」等。

- B 兼家のことが恨めしい 2点
- 1 「…と見る心ちぞ添へて」を「（作者の）兼家（夫）に対する恨み」という意味で解釈できている 2点
- ☆ 「兼家（夫）のことが恨めしい」「兼家（夫）のことが憎い」「兼家（夫）への怒り」「兼家（夫）への恨み」等。
- ☆ 「（作者の）とても平静ではいられないほどの兼家（夫）に対する恨み」などと、Aの要素と重複している答案にも2点を与える（つまり、5点となる）。

- C なぜ実の父親である兼家はこんなに冷淡でいられるのかと思う 2点
- 1 「さるまじき人だにぞ来とぶらふめる」の言外の意味である「なぜ実の父親である兼家はこんなに冷淡でいられるのか」を解釈できている 2点

☆ 「なぜ実の父親はこんなに平然としていられるのか」「なぜ兼家はこんなに薄情なのか」等。



D それほど親しくもない人でさえ、道綱の見舞に来てくれているようなのに

3点

9

1 「さるまじき人だにぞ来とぶらふめる」を「それほど親しくもない人でさえ、道綱の見舞に来てくれているようなのに」という意味で解釈できている

3点

☆「それほど親しくもない人でさえ、道綱を見舞うのに」「道綱を見舞う必要のない人でさえ、やって来るのに」等。

◆ 減点の条件

文末が「…感情。」 「…気持ち。」 「…感情を表す名詞。」 となっていない答案は減点 1点。

問三 傍線部(4)の和歌(「年月のめぐりくるまのわになりて思へばかかるをりもありけり」)で、道綱はこの女性にどのようなことが言いたかったのか、説明せよ。(10点)

【模範解答】

ゆきずりにあなたの車と遭遇した途端に、車の車軸が引っ掛かって立ち往生してしまったという奇跡が起きて、再び私たちが出逢うことができたのも、長い年月が巡り来る間、私がずっとあなたのことを思っていたからだということ。(105字＝3行)

A 私(道綱)があなた(女)のことを思っていたから、二人は再会できたということ。 4

B 長い年月が巡り来る間、(私(道綱)はずっとあなた(女)のことを)思っていた 3点

C (ゆきずりにあなたの車と遭遇した途端に)車の車軸が引っ掛かって立ち往生してしまったという奇跡が起きた 3点

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 私(道綱)があなた(女)のことを思っていたから、二人は再会できたということ。 4点

1 「かかるをりもありけり」を「(二人は)再会できた」という意味で解釈できている 2点

2 「思へば」を「私(道綱)があなた(女)のことを思っていたから」という意味で解釈できている 2点

B 長い年月が巡り来る間、(私(道綱)はずっとあなた(女)のことを)思っていた 3点

1 「年月のめぐりくるま」を「長い年月が巡り来る間」という意味で解釈できている 3点

☆「年月が巡り来る間」「歳月が巡り来る間」「長い年月が通り過ぎた間」「何年も季節が巡る間」等。

C (ゆきずりにあなたの車と遭遇した途端に)車の車軸が引っ掛かって立ち往生してしまったという奇跡が起きた 3点

☆この故障した方の車は、道綱の乗車したものと、道綱がかつて恋文を送った女性の乗車したものととも判断できないので、どちらにとってもよい。

☆注に「牛車の車軸に異物が引っ掛かって、車輪がうまく回転しなくなってしまった」ということとあるので、「偶然、車輪が回らず、立ち往生してしまった」という表現があればよい。

「突然車輪が回らなくなり、車が動かなくなった」「急に車輪が動かなくなり、車が停まってしまった」等。

◆ 減点の条件

文末が「…こと。」 「…名詞。」 となっていない答案は減点 1点。

以上